

山田町長選挙

佐藤信逸氏が再選

参院選と同日の7月10日に投票が予定されていた、任期満了に伴う山田町長選挙は、5日に告示され、同日午後5時に立候補の届け出が締め切られました。

その結果、現職の佐藤信逸氏(61)＝無所属＝以外に届け出はなく、選挙権年齢が18歳以上に引き下げて注目を集めていた

今回の町長選挙は、佐藤氏の無投票当選となりました。

本町の町長選挙での無投票当選は、昭和34年と38年の佐藤善一氏、同63年の福士彌兵衛氏、平成8年の黒澤孝氏、同16年の沼崎喜一氏に次いで6度目となります。

当選証書授与式は、11日午前10時に役場4階特別応接室で行われました。同日、当選証書授与後初の公務となった「主要地方道重茂半島線(仮称)大沢トンネル築造工事安全祈願祭」へ出席。町長としての2期目をスタートさせました。

〈佐藤町長の略歴〉

法政大卒。衣料品販売会社社長、商工会専務理事を歴任。会社役員。平成24年に山田町長初当選。後楽町出身。61歳。



10日に投票された、第24回参議院議員通常選挙での本町の投票率や開票結果などの詳しい内容については、次号でお伝えします。



当選証書授与後初の公務に当たる佐藤町長



町長就任のごあいさつ

山田町長 佐藤信逸

このたび山田町長として、2期目のかじ取りを担うことになりました。被災地山田の代表として行政の重大性を認識すればするほど、1期目以上に緊張感が湧いてきます。

これまでの4年間は多くの困難が降りかかってきました。震災からの復旧・復興に奔走するなか起こったNPO問題で

は、多くの方から刑事告訴を急ぐべきとの声が寄せられました。しかし、しっかりと厳罰に処するため、十分な証拠とそれを集める時間が必要でした。

この問題は今後、民事裁判において審理が進んでいきます。

町の復興については今年度、権利等の整理を必要とする一部地域を除いて土地の引き渡しを終了します。災害公営住宅は6割が完成を迎えるなど、復興工事はもうひと踏ん張りのところまで来ています。復興関連以外では、つくり育てる漁業としてアワビやナマコの稚貝放流事業、児童生徒の医療費助成拡大、不妊治療費の助成なども新たに実施しております。不妊治療費の助成では5組の相談があり、そのうち3組に母子手帳が給付されました。

新たな4年では給食センターの建設に加え、復興工事を完遂させるほか、産業の振興、福祉の向上などにも努めていきます。ふるさと山田のため

ふるさとのために
思いやりのある政治を

めに「思いやりのある政治」をし、誠心誠意職員と共に頑張る所存です。町民の皆様のご理解、ご協力を改めてお願い申し上げごあいさついたします。